自治体 しがの仲間
発行責任者 滋賀県自治体労働組合総連合（滋賀自治労連）委員長 杉本　高
〒520-0051　滋賀県大津市梅林1丁目3番30号　電話077-527-5511/FAX 077-527-5522
2025年12月　No. 370

滋賀自治労連 2025 職場の声、地域の声を届けよう 秋季年末統一要求行動

県市町振興課、市長会、町村会へ要請

滋賀自治労連は県内の各職場や各地域から寄せられた声などをまとめた「2025秋季年末統一要求書」に基づく交渉（要請、懇談、意見交換）を、11月19日には県市町振興課、県市長会と、同28日には県町村会と実施しました。

おもなやり取りとしては、まず「賃金・労働条件については人勧準拠を基本としつつも、各団体が自主的・主体的に決定すべきことであり、議会や住民への説明や理解が重要である」ことを確認・共有しました。そのうえで、再任用職員の低過ぎる一時金の問題、社会人経験採用者の前歴換算率の100分の80から100分の100への改正に伴う在職者調整の問題、会計年度任用職員の有給の私傷病休暇の日数の問題、緊急銃猟の課題などについて議論を深めました。

市町振興課とのやり取り

緊急銃猟

特に緊急銃猟は関心が高く、滋賀自治労連の要請内容「対応する職員の研修制度の構築や身体的安全性の確保や心のケアの対策（動物愛護団体等からのカスハラ対策含む）をすすめること」「総務省は特殊勤務手当を支給しても差し支えないと通知をするも、その財源も基準も示されていない。ハンターはじめ人材の確保と育成、資格取得等に要する財源を国に対して求めること」「特に緩衝地帯における耕作放棄地や休閑地などの整備に係る補助金を国の責任で増額させ、計画的に環境整備をすすめることでクマを人の生活圏から遠ざけ、クマ（生態系）の保護にもつながるまちづくりをすすめること」「市役所（町役場）で現実的な猟銃管理ができるよう緊急銃猟制度導入の趣旨に合った銃刀法の改正を行うよう国に求めること」「緊急銃猟に従事する職員（外部委託により従事する者を含む）を特殊公務災害の対象とするよう国に求めること」に賛同や共感が拡がりました。

なお、市長会、町村会との懇談では、緊急銃猟が1月の首長会議の議題になっているとのことでした。

社会人経験の前歴換算

前歴換算の問題については、滋賀県職が粘り強い交渉で9年遡及を勝ち取った反面、逆転現象が起きないようにするための在職者調整について、当局の側も必ずしも十分な知見を有していたり、対象者の把握等ができているわけでもなく、継続協議となっている自治体も多いのが実態です。滋賀自治労連は、市町振興課に対してこうした県下の現状を報告し、市町の給与担当者を対象に実務を説明・助言する会議を設定することも重要であると提言。町村会との懇談では、「それは良いですね」と賛同の声も寄せられました。

市長会への要請

再任用一時金

再任用職員の一時金については、島根県人事委員会の本年の給与報告（以下）も示しながら、「（本県でも）直ちに是正するとともに、国に対して早急な改善措置を求めること」を要請しました。

☆島根県人事委員会報告より抜粋

「期末手当及び勤勉手当の支給月数については、令和7年4月1日現在、定年引上げ職員が正規職員と同じ4.4月であるのに対して再任用職員は2.3月となっており、これだけの差に見合う業務の違いがあるのか検討の余地がある。」「任命権者においては、再任用職員の現在の業務実態と給与水準について点検を行い、給与水準に見合った業務とすることが適当であるが、それが困難である場合には、少なくとも、期末手当及び勤勉手当について、本委員会が勧告する支給月数を下回らず、正規職員の支給月数を超えない範囲内で所要の改善を検討する必要がある。」

その他の重点課題

まず会計年度任用職員については、有給の私傷病休暇制度が依然として自治体ごとに0～90日と極端な格差が生じている実態も示しながら、国の非常勤職員に付与されている年間10日を最低基準として統一を図ることを求めるとともに、多様な働き方を保障する観点から、鳥取県や高知県などで導入されている短時間勤務常勤職員制度を自治体独自で創設し、必要な法整備・財源保障を国に対して求めるよう要請しました。

また、草津市から米原へと広がった指定管理者の賃金スライド制度が、甲賀市や日野町にも拡大しつつある状況にも触れながら、滋賀自治労連が指定管理者団体等との懇談のなかでお聞きした同制度への期待の声なども届けられました。

町村会への要請

つなぐ公務公共　仲間と職場レポート VOL.1

滋賀自治労連は、来年6月にピアザ淡海で開催される「非正規で働く仲間の全国交流集会 in 滋賀」への働く仲間の結集と集会の成功をめざして、県内の公務公共関連職場を広く訪問し、経営者や労働者との懇談を重ねています。

そのなかで、最も注目を集めているテーマの一つが「賃金スライド制度」です。これは契約締結後に賃金水準が変動した場合、その変動分を反映して請負代金や委託料を増減させるというもので、主に公共工事契約や指定管理者制度において、物価や賃金高騰などの外的要因によるコスト変動に備えて導入されます。ここ数年の異常で継続的な賃金上昇や物価高騰のもとでは、とりわけ指定管理者制度に賃金スライド制を導入する自治体が全国的にも急速に拡大し、県内でも草津市、米原市などが既に導入しており、甲賀市も令和8年度からの導入をめざすとしています。

11月20日、滋賀自治労連は長浜市内の指定管理者施設などを訪問し、懇談と要請を重ねました。懇談では、各地のまちづくり協議会や森林マッチングセンター運営協議会などいずれの施設でも、賃金スライドの必要性については肯定的に受け止められ、ある事業者からは「昨年、市は燃料費の補助などはしてくれたが、人件費については何もなかった。こういう制度は確かに必要だ」「事業収益なんてほとんどない。事業をすればするほどむしろ赤字状態だ」「同じ市のまちづくり協議会でも施設によって規模も運営形態もまちまちで、直営のところもある。直営のところは市の会計年度任用職員に準じて職員の賃金も毎年改善されていて、うちとは違う」「本来、指定管理者制度は何でもやればよいというものではなく、少なくとも業務の性質や内容によってそれに合うものと合わないものをきちんと整理して、合わないものは直営で市が責任を持って運営していく必要がある」等々、物価高騰と人件費高騰に苦慮する現場のリアルな声をお聞かせいただくことができました。

こうしたリアルな課題を持ち寄って、声にして形にして、みんなで楽しく学び合い、経営者も労働者も利用者も、誰もが安心と喜びを実感できる職場づくりをすすめる場として、6月の全国集会を創っていきたいと考えています。参加すれば元気になれる。そんな集会を一緒に創っていきませんか？ぜひあなたの声を聴かせてください。

2025自治体キャラバン

市町の奮闘と住民要求の前進を実感

～緊急銃猟では多くの自治体から苦悩の声ひろがる～

滋賀自治労連も参加する県民要求実現実行委員会は、11月4日から26日にかけて、今年も自治体キャラバンに取り組みました。今年も多くの自治体で、住民要求の前進や先進的な取り組みなど市町の奮闘を確認することができました。

指定管理者制度における賃金スライド制については、昨年の草津市に続き、米原市が本年 3 月に同制度を導入。甲賀市や日野町でも同制度の導入に向けて準備がすすめられていることが確認できました。また、会計年度任用職員の有給の私傷病休暇についても、多くの自治体で国の非常勤職員に準じる形で年10日に改善が図られていることが確認できました。しかし、一部の自治体では改善が進まず、依然として自治体間で格差が残っていることも浮き彫りになりました。

自治体キャラバン　湖南市

緊急銃猟については、ほぼすべての自治体から「苦慮している」など実直な本音が漏れてきました。多くの自治体が「国のガイドラインや情報収集、近隣自治体との連携等で検討をすすめている」としました。

そうしたなか、米原市ではいち早く本年 8 月中に緊急ガイドラインを策定するとともに、11月12日には県、警察、猟友会などと連携し、ドローンも活用した訓練が実施されました。また、甲賀市では山間地域の小学校にクマよけ鈴を配布するとともに、湖南市とも連携しながら対応しているなど、市町の奮闘がうかがい知れました。その他、「駆除ではなく、山林の頂点捕食者であるクマを保護する観点からも、中山間地域等における耕作放棄地等を計画的に整備することで人の生活圏から遠ざけるまちづくりへの転換も急務」といった声も寄せられました。

第57回公的扶助研究全国セミナー 新潟大会に参加して

滋賀自治労連　書記次長　小川　治彦

毎年２泊３日で開催されるこの全国セミナーには、もう何十回も参加していますが、毎回新しい発見や刺激があり本当に元気になるセミナーです。今回も全体会でのリレートークでは、生活保護利用者の現役大学生（法学部３回生）の発言に感動し、思わず泣いてしまいました。

「母子家庭２人世帯で母は精神障害者。小学校２年生から保護を受けており、母は時々パニックを起こす。高校生の時、包丁を振り回して『殺してやる』と暴れて向かって来た時は、さすがに119 番通報をして救急隊に保護してもらった。でも救急隊の人が事情を充分把握せず、「娘なんだからもっとお母さんの事を見てあげて」と言われつらい気持ちになりましたが、担当のケースワーカーさんはすぐ飛んで来てくれて、「怖かったね。大変だったね。でも私が来たからもう大丈夫」と言ってくれて、今後の事とか親身に相談に乗ってもらった。こういうケースワーカーさんの言葉掛けひとつで何回救われた事か。言葉掛けひとつで人の人生に寄り添えるケースワーカーさん、本当にありがとうございました。これからも期待しています。どうかよろしくお願いします」との事。

ここにある「ケースワーカー」の部分は「自治体労働者」に置き換えられる。本セミナーは自治体労働者としての矜持を再確認出来る場でもある。参加者の中に自治労連の仲間をもっと増やして、運動を強く大きくしていく必要があると思う。自治労連本部に対しても通達を送るだけでなく、若い人たちが広く参加できるよう財政的な支援もお願いしたい。

今回も参加して、改めて、「福祉は公的責任」との思いを更に強く確信することが出来た。これからの仕事に、組合活動に、活かして行きたい。

フットサルびわこ紅葉カップ開催！！

11 月24 日、滋賀県自治体労働組合共闘会議はフットサル大会「びわこ紅葉カップ」を草津市三ツ池サッカー場で開催。近畿ブロックの仲間も参加し、県内外から 7 チームがエントリー。スポーツを通じて親睦と交流を深め、さわやかな汗でリフレッシュしました。

優勝はマロン EAST（栗東市職）、準優勝は橋本健康倶楽部（橋本市職）、3 位は草津市サッカー部（草津市労連）でした。また、今年度から新設した女性参画、参加率向上に貢献したチームを讃える特別賞には、鬼蹴連合直系極蹴会５代目湯浅組（湯浅町職労）が輝きました。

近畿ブロック第 36 回スポーツ大会（軟式野球）

大津市労連　準優勝！

【決勝戦ダイジェスト】

11 月21～ 22 日、自治労連近畿ブロックの第 36 回スポーツ大会（軟式野球）が兵庫県の尼崎ベイコムスタジアムで開催され、大会 2 日目の決勝戦では、滋賀代表の大津市労連が先行、大阪代表の寝屋川市職労が後攻で対戦し、両チームとも粘り強さが光る白熱した一戦が繰り広げられました。大津市労連は序盤から果敢に攻め込み、2 回表に先制点を奪うと、5 回にも追加点を挙げてリードを広げました。これに対し寝屋川市職労も、すぐに 1 点を返して試合の流れをつなぎとめ、6 回には鋭い打撃と積極的な走塁で同点に追いつきました。試合は緊張感に満ちたまま最終回へ突入しましたが決着はつかず、延長戦にもつれ込みました。両チームとも実力伯仲でどちらが勝ってもおかしくない好勝負でしたが、最後はチャンスを広げた寝屋川市職労がサヨナラヒットで勝利し、大津市労連はあと一歩及びませんでした。

読者のみなさまへ

諸般の事情により、従前の毎月発行から隔月（偶数月）発行へと変更となりましたのでお詫び申し上げますとともに、引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。

みんなの声

◎過去に何度か育児休暇取得職員をカバーしてきました。おめでたいことなので言いにくいですが、カバーした職員に対する手当はなんにもないねんなと思いました。職員組合で取り上げてもらっていると知り嬉しいです。

H・Ü　滋賀県職

◎最近「年賀状は今年で終わりにします」というハガキやシールを目にします。年賀状という文化も少しずつなくなってしまうのでしょうか。さびしいですね。

A・Y　滋賀県職

◎インフルエンザの予防接種を受けるか毎日悩んでます。

T・M　栗東市職

◎先日、家族で奈良公園に行きました！鹿せんべいを鹿に食べさせてあげたい！と、子どもたちは初めての鹿との触れ合いを楽しんでいました。私にとっては小学校の修学旅行以来の訪問！懐かしい思い出がよみがえりました。

M・M　日野町職労

◎滋賀県立大学は30周年を迎え、イベント企画がたくさんあって、楽しいです♪

I・I　滋賀県職

言ーたい劇場

小菅りや子

▶ WEBで簡単応募ができます

【応募方法】

WEB・ハガキ又はFAXで。答え、住所、氏名、単組名、職場のできごと、話題、家族のたよりなど、ひとことお書きください。（匿名不可）

【送り先】〒520-0051
大津市梅林一丁目3－30
滋賀県自治体労働組合総連合
FAX 077(527)5522

【問題】上の絵と下の絵を比べると７カ所間違いがあります。どこでしょう。

（締切）1月30日（金）

正解者の中から抽選で図書カードを進呈します。（当選者は次号にて発表）

《368号（11／14締切）》
高橋　沙耶香様（滋賀県職）
小西　さと子様（滋賀県職）
斉藤　博幸様（大津市労連）
木村　ゆりこ様（大津市労連）
丸山　義子様（栗東市職）
井上　ほのか様（日野町職労）

《369号12／15締切）》
石川　翔太様（滋賀県職）
岩井　育美様（滋賀県職）
野村　康子様（滋賀県職）
東浦　光紀様（滋賀県職）
竹中　真美様（大津市労連）
上田　裕子様（大津市労連）
伊藤　美希様（大津市労連）
三品　智彦様（栗東市職）
森　真弓様（日野町職労）
西村　圭子様（日野町職労）

《前号の正解》アキノヨナガ